

1. 略歴

1986年4月	東京大学教養学部文科 類 入学
1991年3月	東京大学文学部西洋史学専修課程 卒業
1991年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程西洋史学専攻 入学
1994年3月	同 修了
1994年4月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程西洋史学専攻 進学
1995年10月	アイルランド共和国ダブリン大学留学
~97年9月	(1996年9月まではアイルランド政府給費留学生)
1999年3月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 単位取得退学
1999年4月	東京大学大学院人文社会系研究科西洋史学研究室 助手
2002年3月	博士(文学)学位取得
2002年4月	岐阜大学教育学部社会科教育講座(史学) 助教授
2007年4月	同 准教授
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書

『真夜中の立法者キャプテン・ロック 19世紀アイルランド農村の反乱と支配』(山川出版社 2009年11月) 192+1xxii 頁

(2) 論文

「カトリック解放運動と民衆 1820年代のアイルランドに見る民衆政治の一樣相」『史学雑誌』104 編8号、1995年8月、74-96 頁

「『共同体の記憶』と『修正主義の歴史学』 新しいアイルランド史像の構築に向けて」『史学雑誌』107 編9号、1998年9月、80-95 頁

「名誉革命体制とアイルランド」(近藤和彦編『長い18世紀のイギリス その政治社会』山川出版社 2002年4月) 150-174 頁

‘The Rockite movement in county Cork in the early 1820s’, *Irish Historical Studies*, vol. xxxiii, no. 131, May 2003, pp. 278-296

‘German Palatine immigration of 1709: An aspect of transition from Ireland of immigration to Ireland of parliament’, in Kazuhiko Kondo ed., *State and empire in British history: Proceedings of the fourth Anglo-Japanese Conference of Historians* (Tokyo: AJC [Anglo-Japanese Conference of Historians], 2003), pp. 67-78

「アイルランドにおける宗派間の融和と対立 1820年代のダブリンの事例から」(深沢克己・高山博編『信仰と他者 寛容と不寛容のヨーロッパ宗教社会史』東京大学出版会 2006年10月) 183-222 頁

‘The militia interchange between Great Britain and Ireland’, in David Bates and Kazuhiko Kondo eds., *Migration and identity in British history: Proceedings of the fifth Anglo-Japanese Conference of Historians* (Tokyo: AJC, 2006), pp. 160-171

「『ボトル騒動』と総督 19世紀初めのダブリンの政治社会」(近藤和彦編『歴史的ヨーロッパの政治社会』山川出版社 2008年5月) 480-515 頁

「宗教と公共性 アイルランドにおける宗派間対話の事例から」(大野誠編『近代イギリスと公共圏』昭和堂 2009年7月) 219-239 頁

「秘密結社と国家 アイルランドの非法法宣誓法(1823)を中心に」(深沢克己・桜井万里子編『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史 古代秘儀宗教からフリーメイソン団まで』東京大学出版会 2010年11月) 271-299 頁

(3) 小論、書評、その他

「高橋純一著『アイルランド土地政策史』」『エール(アイルランド研究)』18号、1998年12月、153-157 頁

- 小関隆、勝田俊輔、高神信一、森ありさ「アイルランド近現代史におけるナショナリズムと共和主義の『伝統』」『歴史学研究』726号、1999年8月、22-33頁（「ユナイテッド・アイリッシュメン」23-26頁を執筆）
- 「松尾太郎著『アイルランド農村の変容』」『史学雑誌』109編7号、2000年7月、116-126頁
- 深沢克己他「ヨーロッパ移民の社会史（17-20世紀） エスニシティの形成と軌轢をめぐって（史学会例会シンポジウム特集）」『史学雑誌』110編8号、2001年8月、84-111頁（「アイルランドのプファルツ移民」87-93頁を執筆）
- 「近代イギリス（回顧と展望）」『史学雑誌』111編5号、2002年5月、340-346頁
- 「山本正『「王国」と「植民地」 近世イギリス帝国のなかのアイルランド』」『歴史学研究』776号、2003年6月、67-70頁
- 「西ヨーロッパの近代史」『歴史と地理 世界史の研究』579号、2004年11月、41-44頁
- ‘Comment (1) The Glorious Revolution and Ireland’, *Odysseus*（東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻 紀要）第14号別冊1（2010年2月） pp. 105-109
- ‘Comment’ to Julian Hoppit’s ‘Compulsion, compensation and the sanctity of property in Britain, 1688-1833’, in Kazuhiko Kondo and Miles Taylor eds., *British history 1600-2000: expansion in perspective. Proceedings of the sixth Anglo-Japanese Conference of Historians* (London: Institute of Historical Research, 2010), pp. 27-31
- 「アイルランド」（近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社 2010年10月） 204-229頁

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

- 日本女子大学文学部非常勤講師（1999～2001年度）
- 東京女子大学文理学部非常勤講師（2000～2001年度）
- 神戸大学大学院文学研究科・文学部非常勤講師（2004年度）
- 放送大学非常勤講師（2006年度）
- 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部非常勤講師（2007年度）